

令和7年度 子ども家庭局X方針について

■ 局区X方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 子ども家庭局X方針について

(1)課題数 全6件

課題領域	Aレベル	Bレベル	Cレベル
課題数	2件	3件	1件
政策分野	児童虐待、局全体	保育、子育て支援	保育

Aレベル……行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・Cレベル……政策的な変革課題(Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等)

(2)主な課題・取組内容等

・課題A 児童虐待に対する効果的・効率的な対策の実施（資料1のP3）

- より効果的な児童虐待対応のあり方を検討するため、区役所に児童福祉司を兼務配置し、効果検証を行う必要がある。また、子ども総合センターの職員が経験の量に関わらず、十分な情報収集を行い、確実な支援につなげることが重要である。
- そのため、R7年度については、以下の取組みを行う。
 - ・児童福祉司を大・中規模の区役所にモデル的に配置し、効果検証する。
 - ・児童虐待対応について、DXの活用に取り組み、効果検証する。

・課題A「市民の声」に対応した子育て支援施設等の早期改善の実施（資料1のP4）

- 子育て支援施設等における利用者インタビューや施設点検、市民アンケートを通じて意見・要望を収集し、市民ニーズや市政課題をとらえる必要がある。
また、市民の声を分析し、予算要求を含めた改善策を検討することも重要である。

○そのため、R7 年度については、以下の取組みを行う。

- ・利用者インタビューや施設点検を通じてニーズを把握し、関係課に改善を依頼する。
- ・市民アンケート結果を整理分析し、関係課へ情報共有するとともに予算要求を含め改善を検討する。

・課題 B 保育現場の負担軽減等（資料 1 の P5）

○保育の質の向上と人材不足の状況に対処するため、保育士の確保策や現場の負担軽減策を講じる必要がある。具体的には、保育補助者の雇用支援や新たな人材育成、事務負担軽減のためのシステム導入が求められる。

○そのため、R7 年度については、以下の取組みを行う。

- ・保育補助者を雇用する費用を助成し、保育補助者が保育士をサポートすることで、保育士の負担軽減等を図る。
- ・北九州市独自の子育て支援員研修を開催し、人材育成を図る。
- ・保育現場のDX推進により、保育施設の事務負担を軽減する。

・課題 B 児童館内放課後児童クラブの学校敷地内移設の推進（資料 1 の P7）

○児童の安全・安心確保のため、児童館で実施している放課後児童クラブの学校敷地内移設を検討する必要がある。移設後の児童館のあり方や、子どもの居場所確保策についても、関係部局と協議することが重要である。

○そのため、R7 年度については、以下の取組みを行う。

- ・放課後児童クラブの学校敷地内移設に向けた意向調査と個別計画策定を進める。
- ・移設後の児童館のあり方や、こどもの居場所確保策について関係部局と協議する。

・課題 B 青少年施設のリニューアル及び拠点集約化（資料 1 の P8）

○宿泊型を含む青少年施設は、公共施設マネジメント実行計画で一定の方向性が示されているが、施設の老朽化対策と利用者ニーズとの隔たりを解消するため、民間活用を含めた今後のあり方を見直す必要がある。

○そのため、R7 年度については、以下の取組みを行う。

- ・青少年施設のリニューアルに向けた民間調査を実施し、実施手法を検討する。

・課題 C 多様化する保育ニーズへの対応（資料 1 の P9）

○障害児や医療的ケア児、外国籍のこどもへの対応など、多様化する保育ニーズに対応するため、子育て世帯がそれぞれのこども・家庭の状況に応じ、希望する施設を選べる環境を目指す必要がある。

○そのため、R7 年度については、以下の取組みを行う。

- ・障害児等の多様なニーズに対応するため、民間施設への支援強化等の方策を検討する。
- ・老朽化が進む直営保育所の大規模整備に向け、整備手法等の検討に着手する。